

作成日：R5年12月8日

令和5年度第7回 高松圏域自立支援協議会 運営会議事録

日付	令和5年12月8日(金)
時間	9:20~10:50
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター第1研修室
参加機関等	香川中部支援学校、高松支援学校、高松市健康づくり推進課、三木町福祉介護課、直島町住民福祉課、かがわ総合リハビリテーション成人支援施設、障害者就業・生活支援センターオリーブ、障害者地域生活支援センターほっと、障害者地域生活支援センターたかまつ、障害者生活支援センターあい、相談支援センターりゅううん、香川県発達障害者支援センター『アルプスカガワ』、地域生活支援センターこだま、一般社団法人garyu、相談支援事業所ライブサポートセンター、地域活動支援センタークリマ、高松市社会福祉協議会訪問介護事業所、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計20名

議題1： 会則の変更と R6 年度部会体制について

今後の動き	14日(木)までのさらなる意見を集め、意見を元に変更した内容を送信して確認する。
-------	--

議題2： 各部会活動報告

議事	(こども部会) ・コア会議を開催して、放課後等デイサービス連絡会開催に向けて検討した。 4年ぶり1月10日(水)10:00~12:00開催。各事業所から1名参加。医療的ケアが必要な子どもへの支援をテーマに医ケア部会と「ふわり」に来てもらい情報提供してもらおう。保育所等訪問事業の利用が少ないため、児童発達支
----	---

援センターにより現状を報告する内容。啓発が主な目的として実施する。現在のところ64事業所の内、20事業所から申し込みが来ている。半数程度は参加する見込み。

・直島町の療育を検討する取り組みについては、12月21日、部会長、サブリーダーで幼児学園を訪問し、副園長、町と現状を情報交換する機会を設けている。状況確認を行った上で、取り組む内容があれば、来年度行う。

・災害時モデルケースは2事例取り上げた。

・事業所一覧については、音声ガイドを設定した。

(居宅サービス事業所連絡会)

・11月15日に第2回連絡会を実施。移動支援を提供しやすくするためにはどうしたらよいか、BCPを取り上げた内容。全体で25名参加。11事業所が参加した。終了後の振り返りでは、高松市障がい福祉課に移動支援の説明後、退室されたが、最後まで聞いて欲しかったという意見が上がっている。利用しにくい制度となっている点や、支給決定はされるものの受けてくれる事業所が見つからないという課題がある。今後も取り組んでいく課題と捉えている。BCPについては好評であった。

・第3回はカスタマーハラスメントをテーマにする予定だが、12月にコアメンバーによる打ち合わせを行い、内容を決定する。

※移動支援については支給決定は受けているが、男性のヘルパーが見つからない、希望が週末に集中して利用できない等が現状。具体的に来年度取り組む内容について教えてもらいたい。

→以前に、調査した結果から合ったグループ型については情報提供した。事業所側からは、受けにくい理由として報酬単価がどんどん単価が下がっていくため受けにくい。移動支援の単価は一切上がっていないし、加算もつけることが難しい等の状況があることも大きな課題。

※行政に現場のヘルパーの声を届ける為の機会としたい。

※身体障害の方は介護福祉士で無ければ移動支援が出来ない等の規定が高松市にはある。知的障害の方はヘルパー初任者研修受講で可能。三木町ではヘルパーを派遣できる事業所であれば良い。行政側としても、補助してもらえない部分もあり、単独の自治体だけの改定は難しいこともある。重度の方は行動援護に切り替えると単価が高い等の工夫も必要。行動援護の実施できる事業所も限られている。手順書を毎回作成しなくてはいけない等の理由から行動援護を実施しない事業所もある。

※日中一時、移動支援については単価について変わらないと中々ニーズに満たされないだろう。

(当事者団体・家族会連絡会)

	<p>12月11日実行委員10名で残りの活動を協議。</p> <p>10月15日に連絡会を実施。ピアサポーターの体験談発表、障害者手帳アプリの開発会社の方からの説明、マイナンバーカードについての説明 (医療的ケア部会)</p> <p>医ケアコーディネーターを取得している方へのバックアップ。高松市においてはほとんど研修を受けてくれている。スキルアップを目標として活動。 (B型事業所連絡会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座談会を実施。66事業所が参加。支援の仕方の意見交換を行い三晃になったという意見が多く、来年度も継続して欲しいという意見が多い。他事業所の見学会を実施の継続の声も多い。 ・今後、年度内に管理者向けの座談会を計画している。
--	--

<p>議題3： その他</p>	
<p>議事</p>	<p><今年度の予算執行状況と権利条約研修の開催について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の予備 50000 円程度、余裕がある状況。今年度は計画通り予算を使っていく見込み。 ・予算執行については早めに対応していただき、執行内容に変更が生じる場合には事務局まで連絡。 ・相談支援部会が企画運営する研修会(2/19)についての周知。 <p><来年度計画、予算作成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会の中でしっかりと協議共有した上で、進めてもらいたい。 <p><高松市農福連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉課から中核拠点に連絡があり、農林水産課からの連携を進めたいという話があり、就労部会、B型事業所連絡会にて対応していただくこととした。 <p><R6 年度の主任相談支援専門員養成研修について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要件を全て満たす方が1名など少数になってきている。要件を緩和する必要があると考えている。次回運営会議で提案、協議する。 ・人材育成についても、相談支援専門員協会と共同で研修会を開催する予定。 <p><日中サービス支援型共同生活援助における「地方公共団体が設置する協議会への報告・評価」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回、1件要請があったため、メンバーを調整し訪問する計画。この活動に関し、委員会を位置づけることも必要だろう。

R5 年度第 7 回高松圏域自立支援協議会運営会議

日時】令和 5 年 12 月 8 (金) 9 : 20 – 10 : 50

場所】かがわ総合リハビリテーション福祉センター 第 1 研修室

参加機関】

香川中部支援学校 高松支援学校 高松市健康づくり推進課 高松市障がい福祉課 (欠)

三木町福祉介護課 直島町住民福祉課

就労支援部会) かがわ総合リハビリテーションセンター成人支援施設

障害者就業・生活支援センターオリーブ

精神保健福祉部会) 障害者地域生活支援センターほっと

相談支援部会) 障害者生活支援センターたかまつ

身体障害者支援部会) 障害者生活支援センターあい

知的障害者支援部会) 相談支援センターりゅううん

発達障害部会) 発達障害者支援センター「アルプスカガワ」

こども部会) 地域生活支援センターこだま

医療的ケア部会) 一般社団法人 garyu

当事者団体・家族会連絡会) 相談支援事業所ライブサポートセンター

居宅サービス事業所連絡会) 地域活動支援センタークリマ

高松市社会福祉協議会訪問介護事業所

B 型事業所連絡会) 社会福祉法人ナザレの村 (欠)

会長、事務局) 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

議題】

① 会則の変更と R6 年度部会体制について (45 分間程度)

② 各部会活動報告 (20 分程度)

こども・居宅・当事者・医ケア・B 型

③ その他 (20 分程度)

・今年度の予算執行の状況と権利条約研修の開催について

・来年度計画 予算の作成について

・高松市農福連携について

・R6 年度の主任相談支援専門員養成研修について

・日中サービス支援型共同生活援助における「地方公共団体が設置する協議会への報告・評価」について

次回 1 月 12 日 (金) 9 : 20 – 10 : 50 かがわりハセンター

研修等企画計画書

(謝礼、旅費などの支払いが生じる場合にご提出ください)

作成者

部会名：相談支援部会 機関名： 氏名： _____

企画名
「障害者権利条約について学ぶ」(仮)
日時・場所・内容
令和6年2月19日(月) 13:30~17:00(予定) サンメッセ香川 2階 中会議室(全面) (定員 100名) 講義「障害者権利条約について」 GWと質疑応答 講義を聞いて考えたことや疑問・感想等を話し合い、質疑応答する
主な参加者・人数
高松圏域自立支援協議会に属するすべての会員 100名程度
講師氏名及び所属事業所等
西宮市社会福祉協議会 アドバイザー 玉木 幸則氏
費用
経費 107,680円 内訳) 謝金 会場料金 交通費 宿泊費 等
企画の目的など
日本が、障害者権利条約に2014年に批准し、昨年初めて対面審査が行われた。その結果は、他国に比べて、かなり評価が低いものであった。そのことを日本人として、再度基本的なところから学び直す必要があるのではないかと考えた。そこで、日本相談支援専門員協会の顧問であり、西宮市社会福祉協議会でアドバイザー等幅広い活動をされている玉木氏に、講演等を含む研修をお願いしたいと打診をしたところ、快諾いただけただけなので、企画をした。

令和3～6年度 高松圏域における令和3年度四国ブロック主任相談支援専門員養成研修
受講推薦者の選定方法

選定基準

「令和3年度四国ブロック主任相談支援専門員養成研修開催要領」を基準とし、受講者を推薦するものとする。ただし推薦された者の活動エリアが、一部の市町に偏ることがないように配慮するものとする。具体的には、本人が、本研修の受講を希望し、以下の要件①～⑤のすべてを満たすと運営会議で認めた者を優先的に推薦する。ただし、すべての要件を満たす者が、複数名選定された場合は、各市町担当者と推薦された者で協議し、運営会議にて受講者を決定する。さらに、要件①～⑤のすべてを満たす該当者がいなくなった場合は、要件①～④の基準を満たす者を推薦するものとする。本選定基準（案）は、四国ブロックでの実施が予定されている令和3年度から令和6年度までの基準とする。

（要件）

- ① 障害者等への相談支援業務に関し、十分な知識と経験を有する相談支援専門員のうち、相談支援従事者現任研修を修了した後、本研修の受講開始日前において相談支援又は障害児相談支援の業務に従事した期間が3年（36か月）以上である者
- ② 本研修を受講後、高松圏域内での人材育成（事例検討会、GSV等）、相談支援従事者研修への講師参加及び実習受入等積極的に担う意思のあり、各市町から推薦を受けた者
- ③ 基幹相談支援センター又はそれに準ずる機能を有する相談支援事業所等の相談支援専門員であること。（高松市、三木町、直島町のいずれかが、③の要件に当てはまる相談支援事業所として認定していること。）
- ④ ③の相談支援事業所等において現に相談支援に関する指導的役割を担っている者。
- ⑤ 都道府県における相談支援従事者研修又はサービス管理責任者等研修において研修の企画に携わっていること又は講義若しくは演習に講師として携わっている者。

【令和5年度 部会活動進捗報告】

No.	部会名	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
1	就労支援部会	<p>○イベント委員会 しごとサロンたかまつとジョブチャレかがわを同時開催・雇用セミナーの企画・実施</p> <p>○広報・調査委員会 高校大学プロジェクト・小豆島について情報交換 イベントの広報強化</p> <p>○就労移行支援事業所等委員会 移行事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○A型委員会 A型事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○就労アセスメント委員会 特別支援学校のB型希望者のアセスメント実施 就労選択支援事業検討</p>	<p>・就労相談会の検討。チラシ作成。</p>	<p>R5.5.1 全体会実施。昨年までの進捗及び今年度の予定について確認した。</p> <p>R5.5.17 イベント委員会、広報調査委員会、全体会を実施した。イベント委員会では、ジョブチャレかがわの企画検討した。R5.6月末にチラシ完成した。広報・調査委員会では、令和5年度の計画確認し、情報発信の方法についても、熊本市の情報発信(KP5000)について情報共有した。全体会では、香川県社会就労センター協議会担当者から説明した。</p> <p>R5.6.29 就労移行支援事業所等委員会を実施。現状報告、政省令事項（社会保障審議会障害者部会 R5.6.23)について情報共有。職員スキル等について議論した。</p>	<p>R5.8.21 就労相談会に向けた動きとして、チラシ配布等広報活動、当日の動き確認。広報・調査委員会では、就労選択支援事業検討に向けた情報共有等。就労移行支援事業所等委員会では、職員スキル向上に向けた検討等。</p>	<p>R5.7.19 イベント委員会、広報調査委員会、全体会を実施した。イベント委員会では、ジョブチャレかがわの企画検討した。広報調査委員会では、高校大学プロジェクト等に加えて、就労選択支援事業等について確認した。</p> <p>R5.8.21 ジョブチャレ香川を実施し、13名の相談があった。</p> <p>R5.9.20 就労移行支援事業所等委員会があった。岡山の特例子会社の方を招いて、事業紹介等を行った。</p>	<p>【10-12月目標】R5.12.1 就労アセスメント会議の開催</p> <p>R5.12.20 就労移行支援事業所等委員会</p> <p>【10-12月中経過】R5.11.8 イベント委員会、広報調査委員会、全体会を実施した。イベント委員会では、雇用セミナーについて検討した。広報調査委員会では現状の課題等を報告した。</p> <p>【今後の方向性】R6.1.24 就労選択支援事業・B型の一時併用についてセミナー(就労支援部会内部向け)</p> <p>R6.2.26 企業向け雇用セミナー</p> <p>R6.3月 就労選択支援事業・B型の一時併用についてセミナー(就労支援部会主催)</p> <p>その他 会議(イベント委員会、広報・調査委員会、全体会等)の開催</p>
2	精神保健福祉部会	<p>①精神障害者支援関係者で医療と福祉の連携企画を、参加のハードルが上がり過ぎないように継続予定。</p> <p>②前回の研修をブラッシュアップさせ、高松市内の主任介護支援専門員を対象に研修を企画する予定。</p> <p>③作成したパンフレットを活用した普及啓発を予定。</p> <p>④引き続き、地域移行支援サービスに限らず、病院内の退院支援の取り組みについて部会からのアクションを起こす方向で検討していく。</p> <p>⑤引き続き、コア会議を年3回実施予定。進捗と方向性について適宜、確認する。</p> <p>⑥令和5年度のスーパーバイザー派遣事業の方向性に合わせて、チラシを作成したうえで、各関係機関に周知する予定。</p>	<p>①連携企画を検討するため、医療機関にインタビューを実施する。</p> <p>②高松市内の主任介護支援専門員を対象に研修を企画する。「介護保険への移行について」(パンフレット)の高松圏域バージョンについて意見交換。</p> <p>③作成したパンフレットを活用した普及啓発を実施。</p> <p>④引き続き、地域移行支援サービスに限らず、病院内の退院支援の取り組みについて部会からのアクションを起こす方向で検討していく。</p> <p>⑤コア会議で進捗と方向性について適宜、確認する。</p> <p>⑥チラシを作成したうえで、各関係機関に周知する予定。</p>	<p>①インタビュー結果について項目ごとにWGメンバー内で共有。</p> <p>②「介護保険への移行について」(パンフレット)の高松圏域バージョンについては検討。三木町の対象者については個別対応するため、パンフレットには記載しない方向。</p> <p>③各担当が調整し、説明会等を実施した。</p> <p>④退院支援においての課題が共有できた。</p> <p>⑤コア会議を実施できなかった。</p> <p>⑥SVのチラシ検討中。</p>	<p>①引き続き、インタビュー結果についての共有しながら、企画の検討を継続する。</p> <p>②主任介護支援専門員研修については1月下旬に開催予定。</p> <p>③普及啓発活動を継続していく予定。</p> <p>④引き続き、課題を共有しながら、共通する項目を整理する。</p> <p>⑤7月にコア会議を実施。進捗の確認と今後の部会の運営体制についても検討していく。</p> <p>⑥チラシを作成し周知を行なう。</p>	<p>①引き続き、インタビュー結果についての共有しながら、企画の検討を実施。</p> <p>②主任介護支援専門員研修については1月に開催予定。内容についても検討。</p> <p>③パンフレットを用いて普及啓発活動を実施。合わせて、ピアサポートへの興味についてもアンケートを行なった。</p> <p>④病院内の課題を共有しながら、共通する項目を整理する。他圏域への退院支援時の対応について確認。</p> <p>⑤7月にコア会議を実施。進捗の確認と今後の部会の運営体制についても検討していく。</p> <p>⑥チラシについて確認を行なった。</p>	<p>①各病院への働きかけを行ないつつ、より企画を医療機関の意見も加えて具体的なものにしていく。</p> <p>②主任介護支援専門員研修を令和6年1月23日の開催。</p> <p>③今後のピアWGの活動についても検討予定。次年度の研修についても検討する予定。</p> <p>④引き続き、課題の共有を継続していく。</p> <p>⑤11月にコア会議を予定。進捗の確認と今後の部会の運営体制についても検討予定。</p> <p>⑥チラシを完成させ、案内・周知を行なう。</p>
3	相談支援部会	<p>○R4年度に抽出された地域課題の解決に向けて、WG等を作り、解決に向けて取り組む。</p> <p>○災害時、緊急時対応の計画作成に関するモデル事業に参加し、それを参考に、地域を巻き込んだチーム支援のスキルを身に付ける。</p> <p>○GSVを定期的に行い、相談支援専門員の相談支援スキルの向上を図るとともに、圏域内の相談支援専門員同士の協力体制の構築等を促進・浸透させる。</p> <p>○先進県等から講師を招聘し、相談支援スキル向上のための研修会を実施する。</p> <p>○R6年度の部会長等の改選に向けて、部会員の参加意識をより高めるための、運営体制の見直しを図る。</p>	<p>○GSVを定期的の実施できるように準備をし、スタートさせる。</p> <p>○災害時モデル事業にケースを提出する。</p>	<p>○今年度、GSVを隔月で実施することと、事例提供の順番を機械的に決めて、実際に1回実施することができた。最初だったので、少し戸惑う場面もあったようだが、経験の長いファシリテーターの進行により、なんとか実施出来た。今後は、回数を重ねることで、メンバーのスキルの向上と、日常的にGSVを行う習慣を身に付けていってもらうことを確認した。</p> <p>○メンバーの中から事例を提出していただき、モデル事業に参加できた。</p>	<p>○災害時モデル事業の進捗を確認しながら、部会員全員で共有する。</p> <p>○課題解決WGを視野に入れた、課題抽出にとりかかる。</p>	<p>○災害時モデル事業に相談支援部会から事例を提出いただいた相談支援専門員には、避難時にどう動くのか等の打ち合わせをご本人と進めていただき、検討会にも随時参加いただき、進捗確認と今後の取り組み等について検討いただいたが、その詳細についてはまだ部会内では共有できていない。</p> <p>○隔月でGSVを定期的の実施できているが、その中から課題を抽出するまでには至っていない。</p>	<p>○災害時モデル事業で取り組んだ内容について、部会内で共有し、各部会員が担当している障がい者の災害時の避難について、具体的に考えて行けるような取り組みを検討する。</p> <p>○これまで実施したGSVの内容を集約し、課題を抽出し、来年度に向けてWG等で検討するべき事柄を探る。</p>

No.	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
4	<p>引き続き災害時の身体障害者を中心とした移動に困難のある方を対象に活動を続けた。</p> <p>また、ピアサポーターとしての活躍の場があるかどうかメンバーと検討していく。ピアサポーターの高齢化に伴い、新たなピアサポーターの確保が必要な状況がある。視覚障害者でピアサポーター登録をしてくださる方を探したい。</p> <p>講演会</p> <p>今年度開催できなかった災害時に関すること、当事者から支援者へ向けた講話の実施を再調整する</p> <p>課題の確認</p> <p>ニーズ調査の結果から災害時の次にニーズの高い課題を再確認し、取り組み内容を決める。</p> <p>部会の構成メンバーの検討</p> <p>視覚障害や聴覚障害の専門性の高い機関との連携を深める</p> <p>取り組みをおこない、必要に応じて参加いただくことも検討する。</p>	<p>災害時モデルケースについて支援センターたかまつの担当者との連携して作成をすすめたい。</p> <p>講演会について</p> <p>災害弱者安心ネットワーク定例会への参画継続していく。</p> <p>ピアサポーターについて</p> <p>基幹中核での活動や取り組みを参考に今後の活動参考にしたい。</p> <p>起震車体験について</p> <p>関心のある施設へ打診をして年度内での開催を目指したい。</p> <p>ニーズ調査結果の再検討について</p> <p>支援センターたかまつにてアンケート集計からの課題選定をすすめる</p>	<p>災害時モデルケース利用者宅へ同行訪問し現状の聞き取りを行う。</p> <p>災害時に必要なものや準備しておくべきものについて本人と話し合った。</p> <p>起震車体験について</p> <p>入所施設利用者への起震車体験実施に向けて日程調整をすすめている。</p> <p>次年度部長任期終了のため次年度の活動についても打合せを行っていった。</p>	<p>災害時モデルケースについて必要に応じて訪問や災害時の準備をすすめたい。</p> <p>起震車体験について</p> <p>おおよその開催日時と場所を決定していきたい。</p> <p>また、マックスバリュが福祉イベントへの協力をいただける話があるため打合せを行いたい。</p> <p>ピアサポーターについて</p> <p>参加可能な研修があれば参加し、活動内容の勉強をしていきたい</p>	<p>①災害時の対応について</p> <p>○災害弱者あんしんネットワーク高松との連携・協力</p> <p>・9/3香川県防災会議及びさぬき市防災会議において総合防災訓練実施。その中でメンバー（障害者）の送迎などのお手伝いを実施。12月の防災フォーラムに向けて協力して行っている。</p> <p>○起震車体験については入所施設に依頼するが、消防署で地域交流のために実施は可能だが、施設での避難訓練ではNGとで入所施設に打診中。</p> <p>②ピアサポについて</p> <p>10月にピアサポと身体障害者部会メンバーとの交流会が決まりそれに向けて進めていく。</p>	<p>○防災について</p> <p>12月に災害弱者あんしんネットワーク高松主催の防災フォーラムに向けて一緒に準備を進めていく。</p> <p>○ピアサポについて</p> <p>10月に実施される交流会について積極的に参加することによって顔が見える関係性で、より近い関係性を築いていく。</p> <p>○専門性の高い機関との連携について</p> <p>11月中旬に香川県視覚障害者福祉センターを訪問し、お互いに行きやすいことに対して協力を求めている。</p>
5	<p>○部会開催を年4回で予定。各ワーキングでの協議を継続するほか、内容により部会全体で取り組みを行う。</p> <p>○まずは、昨年度の積み残しを早急に進める。</p> <p>○今年度は、意思決定支援と強度行動障害に関する取り組みを更に強化するものとし、研修の開催や周知活動を実施していく。</p> <p>○強度行動障害については、スーパーバイザー派遣事業を部会で運営していくことを提案。スーパーバイザーとして活躍して頂いている方を部会の新メンバーとして依頼し、層を厚くして協議を進めていく。</p>	<p>○部会を開催し、今年度の取組みおよび体制について確認する。</p> <p>○昨年度の積み残し、今年度の取組みで可能なことから進めていく。</p> <p>○強度行動障害スーパーバイザー派遣事業を運営していく。</p> <p>○災害時対応モデルケースを決定し、運営会議で報告。担当相談支援専門員に対応を依頼する。</p>	<p>○4/7コア会議を開催し、今年度の部会運営について、方向性を確認する。</p> <p>○5/18部会開催。運営、取組みに関する事項をメンバーで確認する。今年度はワーキンググループに分かれず全体で、2ヶ月毎の部会開催を予定。取組み事項を確認するとともに、年間スケジュールを作成した。</p> <p>○7/19部会開催までに各担当者で進めておくこととして、</p> <p>①県社協との情報交換の計画を決定</p> <p>②緊急短期入所利用に関する準備リストをHPに掲載</p> <p>③スーパーバイザー派遣事業の周知メール</p> <p>また、来年度から知的障害がある方を部会に参加してもらうために、参加依頼する方のイメージ像を考えておくこととした。</p> <p>○災害モデルケースについては、担当相談専門員が協議会の災害チーム検討会に参加してくれている。</p>	<p>○7月、9月に部会を開催する。</p> <p>○進捗状況の確認と詳細の計画を決定していく。</p> <p>○県社協との情報交換会を実施する。</p> <p>○予算の確認、来年度の体制づくりについても部会開催の都度話題に挙げ、常に意識して進めていく。</p>	<p>○7/14および9/12に部会開催。主に以下の点について、協議を進めた。</p> <p>①スーパーバイザー派遣事業の周知メール</p> <p>9月未現在で4件の派遣依頼あり</p> <p>②社会福祉協議会との勉強会（日常生活自立支援事業・成年後見人制度について） → 9/12実施</p> <p>③過去に作成した社会資源冊子の共有</p> <p>④災害時のモデルケース報告</p> <p>⑤来年度の体制、取組み（当事者の参加）について</p> <p>⑥緊急短期準備リストはHPへのアップ作業中</p>	<p>○進捗状況の確認</p> <p>○来年度の取組みとしている、当事者の部会参加に向けて、当事者の選定、会議の進め方等を決定する。</p> <p>○社会福祉協議会との勉強会についての振り返り</p> <p>○まだ協議できていない事項（支援学校の課題）について整理する。</p> <p>○来年度の体制、取組み、予算について検討を進める。</p>

No.	種別	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
6	発達障害部会	<p>1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの再送付などPRを再実施する。 ・モデル校を依頼して、実際に生徒に対して使用し、課題の考察を行う。 <p>2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員と2回目の情報交換会を実施して、定期的な会合の在り方について話し合う機会をもつ。ケース検討を都度実施することや、まるごと相談員がつながっているネットワークに障害者自立支援協議会のことを知ってもらう取り組みにつなげていく。 <p>3) こども部会と共同で、放課後等デイサービス事業所のスキルアップに関する取り組みを検討する。</p>	<p>1) 高校生ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度チラシを作成してPRを実施したが、学校現場での利用には結びつかなかった。 ・今年度以降の取り組みについて、定例会の中で検討する。 <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の目標はほとんど達成できなかった。 ・相談員に、発達障がいや発達障害部会のことを知ってもらい、必要な連携ができるためにできることを定例会で検討する。 <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記について、部会で確認したうえでこども部長に提案する。 	<p>1) 高校生ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生だけでなく中学生にも枠を拡げて打診していく。 ・ガイドブックを増刷して、実際に高校で使っていくことを具体的に検討する。 <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員との情報交換会を、基幹相談支援センターが実施している会に相乗りさせていただく形で進めることになった。 <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記の通り提案した。 	<p>1) 高校生ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校を選定し、実際に生徒に対して使用する勉強会の方法などを決定する。 ・ガイドブックを増刷して、勉強会を実施する。 <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員との情報交換会を実施する。 ・その後の連携の具体的な場面や方法を案出して、相談員側に提案する。 <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下半期に放課後等デイサービス事業所スタッフ対象の研修と情報交換会を実施するので、その準備をこども部会と進める。 	<p>1) 高校生生活ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校の選定にあたって対象を中学校まで広げて打診。 ・現在、高松市立の中学校1校と実施に向けて検討を進めている。 <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員との情報交換会を実施した。 ・発達障害が疑われる、相談員が対応に困難を感じている地域住民に対する支援を検討する場(ケース会など)に今後積極的に参画することを双方で確認し、また実際に参画した。 <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス事業所スタッフ対象の研修と情報交換会を10月に実施した。こども部会からも参画。 	<p>1) 高校生生活ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校での使用を実施し、結果を検討する。 <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会などへの参画を複数回実施する。 <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の放デイ事業所の情報交換会の実施についてこども部会と協議する。 <p>4) 部会の構成員など組織の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、高松市障害福祉課/香川こだま学園/アルプスカがわ/基幹相談支援センター中核拠点のメンバーで運営している。活動内容を再検討するために、メンバーも再検討する。
7	こども部会	<ul style="list-style-type: none"> ・部会の目的の再確認 ・コア会議を開催 ・本部会の開催 ・事業所連絡会の開催 ・直島町の療育体制についての検討 ・発達障害部会と医ケア部会との連携 ・災害時のモデルケース(児童) ・任期満了に伴うR6年度に向けた新体制について 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会を開催し、今年度の活動案について部会員より意見をもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回部会を以下の日時点で開催した。 6月22日(水) 10:00～11:30 場所: 香川こだま学園園舎 H30年の部会発足から現在までの活動経過の報告とR5年度の事業計画(案)を説明し、部会員より意見をもらった。今年度からは、高松市の発達支援センター香川こだま学園もメンバーに加わった。久しぶりの開催で活発な意見交換が出来て、有意義な会であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児発・放課後デイ連絡会開催に向けての準備を行う。 ・準備委員でコア会議を行う。(事業所の方2～3箇所に声をかける) ・医ケア部会のリーダーの滝川さんと打ち合わせを行う ・準備会を開き、具体的な開催日時や会場を相談する ○直島町の療育体制についての検討 ・今後、どの様に進めるかを町役場の担当者とは相談する ○発達障害不快と医ケア部会との連携 ・児発・放課後デイ連絡会の準備を医ケア部会と連携しながら行う ・発達障害部会のリーダーに高等学校で不登校やひきこもりになっている生徒に対する進路指導がどの様にされているのかについて情報をいただく ○災害時モデルケース(児童) ・9月迄にモデルケースの災害計画を作成する ○R6年度に向けた新体制について ・次年度のリーダーの候補の方に交渉する。 ○福祉サービスのアンケートの公表について高松市の担当者と相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時モデルケース(児童) ・モデルケース2例の災害計画を作成し、要援護者名簿登録を行った。(9月末日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○コア会議を開催し、児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会開催に向けての準備会を実施する。 ○直島町の療育体制については、町役場の担当者を通じて直島幼児学園の担当者とは連絡を取り、訪問日程や連絡会開催についての具体的に相談を行う。 ○10月10日に開催されるアルプスカがわ主催の放課後等デイサービス事業所を対象とした研修会に参加する。 ○10月2日に開催される災害時のモデルケース検討会に参加し、進捗状況を述べる。 ○R6年度の新体制に向け、部会長とサブリーダーの候補を決定し、運営会議で提案する ○児童発達支援、放課後等デイサービス事業所情報を掲載している協議会HPに視覚障害の方向けの音声ガイド機能を導入する。

No.	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
8	<p>部会のメンバーが直接的支援二関わるメンバーではなく、課題の抽出がしづらい。しかし、ソダテルにあげられている課題・個々での相談場面では課題が上がっているため、その課題を大切に、解決に向けた取り組みをワーキンググループを作り、そこで話し合ってもらおうようにしていく。その内容を年3回の部会で共有する。ワーキンググループには、色々なメンバーに参加してもらおう。スーパーバイザーとして、ソダテルにもしっかり関わってもらおう。</p>	<p>部会では、各分野の現場の課題を持ち寄ってもらう。昨年出された、地域の課題を大切に、訪問看護のワーキングを立ち上げる。医ケア児(者)・重心児(者)に関わっている訪問看護師に横のつながりを持ってもらう。</p>	<p>第1回目の医ケア部会に参加していただいた方々から、各分野の課題を共有してもらうことができた。保育教育分野では、保護者の就労と、医ケア児の体調や医ケア面で受け入れ体制を検討しなければならぬと言った点、訪問看護に関しては、児童に関わりがない看護師の介入などそれぞれの分野での課題はある。その一つ一つ、どう解決していくのが良いかを考える機会にはなった。</p>	<p>・訪問看護ワーキング主催で、医ケアコーディネーターを取得した看護師を対象に、研修会の開催 ・医ケアコーディネーターを取得している相談支援専門員を対象にした、フォローアップ研修の準備(今回はMSWからの事例検討にしたい)</p>	<p>・訪問看護ワーキング主催で、医ケアコーディネーターを取得した看護師と相談支援専門員を対象にした研修を開催。実際重度心身障害者を持つ母親から、相談員や訪問看護師に期待すること、連携に関してのお話をいただいた。受講者は多くはなかったが、ずっと医療ケア児に関わっている看護師、今後新たに関わろうとする看護師などがいたので、参考になったようである。今回は、ZOOMと対面のハイブリットでの研修とした。</p>	<p>・医ケアコーディネーターを取得している相談支援専門員を対象にした、フォローアップ研修を12/14に開催予定。 ・県主催でフォローアップ研修を開催しているが、圏域内での受講者は少ない。医ケアに関する研修は、継続して行っていく必要がある。受講者を増やしていくことも課題として検討していかなければならない。</p>
9	<p>・連絡会を3回開催する。 第1回：7月12日(水)AM 加算について(様々な加算と申請の仕方について) 第2回：11月15または22日(水)AM 移動支援について 第3回：2月14または21日(水)AM カスタマーハラスメントについて ・コアメンバー会議を4回開催する。 第1回：5月26日(金)AM 第1回連絡会について 第2回：9月 第1回のふり返りと第2回連絡会について 第3回：12月 第2回のふり返りと第3回連絡会について 第4回：3月 第3回のふり返りと来年度計画について</p>	<p>第1回コアメンバー会議を5月26日に実施し、年間計画を立て、第1回連絡会の打ち合わせを行うこと。</p>	<p>1. 第1回コアメンバー会議を5月26日に開催し、下記の内容の協議を行った。 ・年間計画(左記)を作成 ・第1回連絡会の打ち合わせ 2. 第1回連絡会に向けて、講師依頼、案内状の送付、資料の準備などを行った。</p>	<p>1. 7月12日に第1回連絡会を実施すること 2. 連絡会終了後、コアメンバーで直後の簡単なふり返りを行うこと。 2. 9月に第2回コアメンバー会議をzoomで開催すること。そこでは、第1回連絡会の詳しいふり返りと、第2回連絡会の打ち合わせ内容や役割分担を行う。</p>	<p>1. 7月12日に第1回連絡会を実施。テーマは「特定事業所加算等、加算の取り方について」、参加者は 名。 2. 連絡会終了後のふり返りでは、声が聞こえにくかったので会場を広くした方がよい、参加者数が少なかったため、市から再度案内をメールしてもらってはどうか、などの話が出された。 3. 9月6日にzoomにて第2回コアメンバー会議を実施。第2回連絡会を11月15日に行うこと、テーマは移動支援とBCPの整備についての2つにすることとなった。</p>	<p>1. 11月15日に第2回連絡会を実施する。テーマは「移動支援を提供しやすくするには?」「業務継続計画(BCP)の整備、どうしてる?」。 2. 12月にzoomにて第3回コアメンバー会議を実施し、第2回連絡会のふり返りと、第3回連絡会についての打ち合わせを行う。</p>
10	<p>・ホームページで各家族会の紹介。 ・障がいの理解をしてもらえ る機会の検討。 ・障がい者差別解消法の啓発活動。 ・マイナンバーカードや便利なアプリの使い方講習。 ・購入した防災グッズを使用した後に、本人の障がいに合わせて必要な物をプラスして、自分の防災セットを完成させる検討会を実施する。</p>	<p>・購入した防災グッズを使用した後に、本人の障がいに合わせて必要な物をプラスして、自分の防災セットを完成させる検討会を実施する。</p>	<p>・購入した防災グッズを使用した後に、本人の障がいに合わせて必要な物をプラスして、自分の防災セットを完成させる検討会を実施した。その時の、アドバイザーとして、高松市役所危機管理課職員と香川県の防災士の方をお願いした。参加者30名。行政に対して家族会から、世間の方は、障がい特性の理解が低いので、行政も積極的に、災害時、障がいがある人が嫌な思いをしないように、改善策を考えてほしいと要望あり。例えば、発達障害の子どもが避難所に行くこと、『うるさい』と言われたり、『親がしっかり教育しろ』と言われた事があるといった、体験談もできた。</p>	<p>・7月20日(木) 当事者団体・家族会連絡会の実行委員会を開催し、今後の具体的活動方法を決める。</p>	<p>・R5年7月20日 当事者団体・家族会連絡会 実行委員会を実施。 ・(株)ミライロ ミライロIDに関する質問を前もって集めた。 ・マイナンバーカードについて事前に問い合わせた。 ①障がい者手帳との紐づけはされているのか→現在はされていない。 ②薬剤情報については登録される前からの情報も記載されるのか→その通り。 ③転職した場合は?→通常の手続きに多少、日数はかかるがマイナンバーカードを持って行っている手続きは必要ない。</p>	<p>・R5年10月16日 第2回当事者団体・家族会連絡会を実施。内容①ピアサポーターの体験談発表 4名 ②ミライロIDの説明 講師：(株)ミライロ 井原氏 (ZOOMにて) ③マイナンバーカードについて 講師：高松市役所 デジタル戦略課 以上の演目に、より多くの当事者の方、ご家族の方、支援者の方が参加していただける事を目標とする。</p>

No.	事業名	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
11	B型事業所連絡会	<p>今年度より連絡会を立ち上げるにあたり、B型事業所を取り巻く環境はコロナ禍や物価高騰の影響を受け厳しい状況下にあるが、昨年度に引き続き様々な課題を抽出し検討した上で解決方法を見出していく。</p> <p>取り扱っていく主なテーマとしては、工賃向上、新規事業開拓・商品開発、共同受注、利用者の重度化・高齢化への対応、障がい特性に応じた専門的な支援など多岐にわたるが、事業所見学会、意見交換会（現場スタッフを対象）、座談会（管理職を対象）を各1回開催し、B型事業所全体の工賃向上や支援の質向上に取り組んでいける仕組み作りを構築していく。</p>	<p>年間目標計画を達成するために、第1四半期としては事業所見学会や座談会を実施していくための打合せについて、実行委員会を開催し計画していく。</p>	<p>事業所見学会および座談会を企画開催していくために、まずはB型事業所が現在抱えている課題抽出を行うために、『高松圏域における就労継続支援B型事業所の「座談会テーマ」に関するアンケート調査について』を高松市障がい福祉課にも配信のご協力を依頼し、6月に実施した。</p>	<p>左記のニーズ調査の集計を基に、秋頃に開催予定の事業所見学会の実施要項に関して、8月に実行委員会を開催し取りまとめていく。また、事業所見学会を踏まえて実施を予定している座談会についても、併せて開催方法の検討を行っていく。</p>	<p>座談会および事業所見学会実施に関する打合せのための実行委員会を8/30（水）に開催した。</p>	<p>【10-12月目標】昨年度同様に、座談会および事業所見学会を開催し、事業所間同士のネットワークづくりや、工賃向上やより良い支援に関する情報共有を行える場の提供を目指していく。</p> <p>【10-12月途中経過】座談会（現場職員向け）を10/11（水）に開催し35名程の参加があり、①工賃向上について、②利用者の重度化・高齢化について、③精神障がい者への対応について、④作業中の支援について というテーマに関して、7グループに分かれてディスカッションを行った。</p> <p>11/13（月）～24（金）の期間で、受入が可能な14事業所を対象とした事業所見学会を開催中。</p> <p>【今後の方向性】10・11月に開催した座談会（現場職員向け）および事業所見学会を踏まえ、今年度はさらに座談会（管理者向け）を開催し、B型事業所において起こりがちな経営と現場支援の乖離が生まれにくいようなサポート体制の構築を目指す。可能であれば、工賃向上と質の高い利用者支援に精通した講師を招聘し、講演会も併せた座談会を実施する。</p>

No.	課	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
12	事務局	<p>① 障がい児者の災害時の対応について、モデルケースを選定し避難計画作成と避難行動訓練の実施に取り組む。市町にて、災害時の避難行動要支援者名簿への登録を推奨し、登録者の個別避難計画の作成に取り組んできたが、障がい児者の登録、計画作成はまだ進んでいるとは言えない。また、協議会身体障がい者支援部会において、被災経験のある障がい福祉事業所の職員を講師に研修会を開催したり、相談支援部会では、緊急時・災害時の対応プランの作成などの促進に取り組んできたが、まだまだ災害時に備える取り組みを推進していくことが必要である。</p> <p>そこで、令和4年度、協議会全体の取り組みとして災害時の対応について協議することとし、運営会議を中心に検討を続けてきた。そして令和5年度は、協議会全体でモデルケースを選定し、そのモデルケースについて、避難計画の作成と避難行動訓練の実施に取り組む、確認された課題を運営会議を通じて市町関係部署と共有していく1年とする。</p> <p>② 令和4年度に引き続き、障がい児者の権利擁護に関する取り組みをさらに推進していく。</p> <p>意思決定支援の重要性について圏域内関係者への理解を促進していくために、令和3年度より意思決定支援ワーキンググループをつくり、協議を始めた。令和4年度は、抽出された好事例をもとに研修会を開催したところ、多くの方の参加があり、関係者の意思決定支援の重要性についての関心の高さを感じることができた。</p> <p>また、令和4年度は、障害者虐待防止法の改正により各施設・事業所に障害者虐待防止研修の実施が義務化されたことから、小規模事業所を対象とした虐待防止研修も実施した。</p> <p>権利擁護に関する取り組みを単年度で終わらせるのではなく、さらに推進していく。</p> <p>③ 目標①、②を推進することと各部会の活動を通じて、関係者に協議会の活動や取り組みについてひろく知ってもらう。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 災害時対応への取り組みについて、モデルケースを確定し、担当相談支援専門員等で構成する検討会を開始する。今後は、その検討会で進捗のスケジュールを決めて情報共有、進捗管理を行う。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 昨年度の意思決定支援研修を協議会意思決定支援検討会にて振り返り、運営会議にて報告し、今年度の企画案を策定する。</p> <p>③ 災害時の取り組みを推進すること とで、市社協、健康福祉総務課などの対しても協議会の取り組みとして行っていることを知ってもらう。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 ・6/19、21に8ケースの担当相談支援専門員と主任相談支援専門員、市社協等に集まっていたが、検討会を実施し、それを市健康福祉総務課と障がい福祉課へ報告した。検討会では各モデルケースの概要を共有し、避難行動の方向性について意見交換できた。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 5月12日の協議会運営会議に今年度の意思決定支援研修会の企画案を提出し、今年度は、11月に基礎編、3月の実践編を実施することが決定した。</p> <p>③ 災害時モデルのケースについて、検討会を開催することで、よりひろく協議会の活動を知ってもらうことができた。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 ・災害時対応への取り組みについて、検討会を中心に、計画作成、担当者会、避難行動の体験等と取り組みを進める。またその進捗を運営会議に報告してもらう。また運営会議ではこの取り組みの終了後、この課題をどう取り扱うかを議論する。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 ・意思決定支援実践編研修で扱う事例及び演習の内容等について検討を進めると同時に基礎編の企画立案を行った。</p> <p>③ 協議会HPについて随時更新を進めた。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 7～9月にかけて8ケースについて災害時の対応の取り組みを進めてもらい毎月の検討会で報告、情報交換し合った。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 ・意思決定支援実践編研修で扱う事例及び演習の内容等について検討を進めると同時に基礎編の企画立案を行った。</p> <p>③ 協議会HPについて随時更新を進めた。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 10月頭の検討会を最終の検討会として実施した。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 ・11月6日（月）意思決定支援実践編研修を実施し、57名が参加した。引き続き、実践研修の企画立案を行う。</p> <p>③ 部会の活動を中心に協議会の活動をより広く知ってもらう、また参加してもらうように、協議会の会則等を見直す。現在の会則の再確認をして、修正案を提示する。</p> <p>④ これまで協議してきた「グループホームから退所して生活する方を支援する際の課題としてどのようなものがあるのか、また、克服するためにはどのようにすべきか」という点に今後もフォーカスして議論を展開しても興味を示す事業所が少数になることが見込まれ、議論が活性化しない可能性がある。そのため、まずは、グループホームの担当者が集まる機会を設けて、困りごとや事業所が協力して取り組むべきことができないか検討する。</p>